

8A-5

座長：谷川教授を紹介

谷川教授：科学時代のモラル

何故こういう問題が問題になるかの理由は、核兵器の出現によって人類破滅の可能性がでてきたためがある。科学に対して従来も懸念の念が押されたことはあるが、科学が人類の進歩と幸福の増進に貢献していることに対する確信はゆるがなかった。それが今日では少し変ってきた。

先年米国のあるジャーナリストの向に答えて Russell が述べた言葉：“われわれの前には二つの入口がある。ひとつは天国への入口であり、他は地獄の入口である。どちらをえらぶかが現代の最大の問題である” という言葉はその変化を率直に示している。

人類とそれが築き上げたものの破壊の回避こそ現代のすべての行動と思考の原理にならねばならぬと私は考える。

Einstein が1948年、ソ連の4字角に送った公開状の中に“全体的破滅を避けるという目標は、他のどのような目標よりも優位しなければならぬ”という言葉があるが、この言葉は科学時代のモラルの原理とすべきものであり、これを私は Einstein の原理と呼びたい。

c094-010-019

80-6

Einstein は社会主義が現代社会の矛盾を解決する唯一の道があることを認めたが、これを唯一の道とは認めない。また体制の長所を認めつつも社会主義さえ樹立すればあらゆる問題が解決できるとも考えない。ところがこれら唯一の道としてこれを宗教的厳格化するものが行われている。これは専制政治への方向をとりかねない。("Out of my better years" による) 二二に博士の公正な考え方がよく表われている。

博士が在野連帯の考えを話したとき、ある科学者が「何世人間の破壊のこととみなすにひどく心配するのかわ」と言われたというが、これは社会の不安定から生じる社会意識の麻痺で、そういうニヒラクトの存在自体が社会的問題であると同時に全体的道徳的問題でもある。

二二の大気圏内核実験の廃止に当って、ケネディが池田首相に送った手紙の中に、「核実験を不道徳という人がいるが、米国の抑制力とソ連より保つさせずいものにすることは不道徳の極みである」という言葉がある。二二の言葉も博士の厚理に照らして見る二二がわかる。二二に国家理性の問題が出てくる。

ニイバーは「個人は道徳的になりませんが、国家は道徳的になりえない」と言っているが「今やそれだけではダメだ」。

8A-7

核抑止力の考え方も、根本の視点が国家や自由や社会主義の防衛を主眼とする点では、“他の如何なる目標よりも優位すべし”との原則にそむいていない。

ニヒリストは説得のしようがないが、それ以外の人にはアボルト原則を貫くことがこの科学時代のモラルであろう。

国家理性を正面に押し出したのは近世ではマキアベリであるが、マキアベリは当時のイタリアの小国分立の状態に統一と秩序を與えようとしたのであって、その精神を今日に押し及ぼせば、今日の世界的無政府状態と無制限な国家のエゴイズムを抑えるために世界政府を志向することは、マキアベリが国家理性を説いた趣旨にそむくものともいえる。

世界政府の構想は、既存の国家をまったく無くすのではなく、その主権の一部を制限するにある。それは平和共存の論理的帰結ともいえる。アインシュタインの原則から導き出される科学時代のモラルの基本の幾つかをいえば“(1)人類の意識 (2)寛容。この背後には人間を常に目的として見て、手段と見てはならぬという一般的道徳的格準律が考えられる。

世界憲法草案のための委員会（通称シコフ委員会）の起草による憲法草案は、次の4つの修正原理にもとづいている。

- A. 戦争は違法とされねばならぬし、進言とせらる。
- B. 世界政府が然らず人は世界に死す。

8A-8

- C. 世界政府は必要である。それゆえに可能である。
- D. 世界政府と平和とは、正義によってのみ成り立つ。

前文にも二の趣旨が盛られている。

また憲法中の義務権利の宣言は、世界政府が基本的人権を基礎にしていることを明かにしている。このように憲法の中に *moral* をもつたところに特色があり、目的達成のためには体制と *moral* の両方が必要であることと認めている。

世界政府の構想を夢想、神話としてしりぞける批判の代替物としてのニバーの考え方がある。それを要約すると

- (1) 従来の国家は、人種言語の下の社会的統一を基礎としているが、世界政府にはまだそのように業地がない
- (2) 一社会の統合力が少ないと強制力が必要である。内的強制力が弱いと、正義を犠牲にして秩序を立てることに陥り勝ちである
- (3) 世界政府を造る力は *technology* の力だが、そのために誰かが特定の強大国を指導的の口としてしまう恐れがある。

ソ連が以前は世界政府に反対し、その運動に独占金融資本が加担するものを見たのは上記の(3)による。また(1)も一見尤もに見える。

しかし上記の批判に対して言えることは

- (1) 世界政府の精神的地盤はニバーが考えるよりもっとよくできている。もしそう見えぬとすればそれはまさに国家の制約によるものである。

8
A-9

(2) 下からの統一は秩序の神というよりむしろ生きた形成力
でほじめて現実化する。封建制 → 近代の移行のときも
そうであった。

自分ほもうん世界政府がすぐにはできるとは思わぬが、それは
人類の理想であり、世界は二の方向に向かっていることを自分は
信じている。できるだけ多くの人の^{多く}信じるようになるれば、二
の理想は人々の moral に大きな影響を及ぼすものと考え
られる。従ってこれは Einstein 原理の前提でもあれば"
たに 尊びさの果ともなるものであろう。

討論:

湯川: ツ連の態度 ~~は~~ の権移のほうか

谷川: ~~今~~ 昔は反対していたが、近年は 世界平和評議を
を介して 反対的に なっている。逆にこの点ではアメリ
カが 容共的なののようにみている。

坂田: 世界政府は民主的構成か?

谷川: ア博士は世界政府を支持する一人だが、博士が口述
に発表した次の事柄を見ても、世界政府が民主的構成
になるべき予設は十分ある

- (1) 政府代表だけでなく、人民代表を
- (2) 総会を安保理よりも優先せよ
- (3) 総会を常に開いて、急事に即応できるようにせよ。

田中: 1口1票なのか?

8A-10

谷川：人民代表にせよ ということになる

田中：人類という概念は元来は 陸軍主義的のもの
なのだ"が" —

谷川：科学の発展で 世界社会の地盤はどんどんできていき、
今後ますますそうなるだろう。そういうもののほ口家の
障壁によるものであると考える。この障壁がとれれば"
今後もっと現実的になるだろう。

田中：核兵器が出現したために、まさにそうになっているが、それ
は 恐怖の共同体 であって、もっと高い意味の人類
というには まだ少し弱いように思う。

谷川：インドのバーナダ協會のラマクリシュナンのような、
ひとつの真理 を目指す考え方をゆきわたらせるこ
とが必要である。科学者は — Einstein が述べて
いるように — 皆一種の宇宙的宗教感情を行っ
ている。つまり世界にひとつの秩序のあることを前提
として仕事をしている。それが ~~人~~ 人類意識に結び
やすいのではないが。

田中：カントの格言（はたと手段とせず目的とせよ）も背景に
キリスト教があった。人類意識を何か新しい、積極
的なものが背景に必要だろう。

12時50分 閉会

(小川記)